

令和8年6月 市長定例記者会見

2026年5月26日(火)

午前11時00分 開始

【広報広聴課長】 それでは、定刻となりましたので、ただいまから市長定例記者会見を始めさせていただきます。

初めに、市長よりご挨拶申し上げます。

【市長】 では、6月の市長定例記者会見ということで、よろしく申し上げます。

今日ですけれども、6月議会の招集をさせていただいております。来週の火曜日から開会ということで、今日、記者発表項目でもあります6月の補正予算、それから一般議案を上程させていただくということで、これはいつも言っていることですが、丁寧の説明をして議会の承認を得られるようにしていきたいと思っています。

定例の記者会見ということで、近況報告的に最近のことをちょっと申し上げますと、いろんな総会などが5月から6月にかけてあるんですけれども、先日、東京で北陸新幹線の要望活動へ行ってきましたということで、5月11日には北陸新幹線敦賀・新大阪認可・着工早期実現決起大会というのがあり、それから翌日の5月12日には北陸新幹線オール福井合同中央要請というのがありました。これが新幹線関係です。それから道路関係が5月13日に福井県道路整備促進期成同盟会の中央要望活動、それから5月14日には今度は原子力関係で、全原協、全国原子力発電所所在市町村協議会の総会があるということで、本当に敦賀にいろいろ関連する北陸新幹線であったり、道路であったり、原子力ということで、そういった要望活動をほかの自治体の皆さんとやってきたというところがあります。

今週ですけれども、今日もですが、各種の総会がありますし、今週の金曜日にも総会があるということで、各分野に課題が多くあるかなと思っているんですけれども、こうした総会も通じまして、いろんな関係者の方々としっかりと連携をして課題解決に向けて着実に進めていきたいなと思っております。

それからもう一つ近況報告的に言うと、この前、おとといになりますか、日曜日に水防訓練をやりました。毎年やっていることではあるんですけれども、これからの出水期と言われる雨の時期を迎えるのにあたり、いろんな基礎技術を改めて見直すということで、消防、消防団、防災士会、それから松原地区の方にも参加していただき、あと土木協会の方にも参加していただいたということで、水防体制の強化を図っていききたいと思っています。

敦賀は、災害が少ないと皆さんよく言われますけど、市民の方も言われますけれども、

ずっと災害が起こらないかという、それはあまりそのように思わないほうがいいなと思っ  
ていまして、ちゃんと危機感を持ってやっていきたいと思いますということで呼びかけもさせ  
ていただきました。

もう一つ、5月22日から姉妹都市の韓国の東海市の職員のキム・ウォンボムさんをお迎  
えしております。昨日、私もお話をしたんですけれども、11月までの約半年間、敦賀市役  
所のほうで研修をしていただく。あるいは市民の方とも交流していただくようなことも考  
えているようで、こうしたことを通じまして東海市と友好的な関係がますます深まること  
を期待しているというところです。

私からは以上です。

【広報広聴課長】 それでは続きまして、事業発表に移ります。令和8年度6月補正予算  
案の概要について、お願いいたします。

【市長】 6月補正予算ということで、今回の補正予算ですけれども、早急に予算措置が  
必要になったものに加えまして、国、それから県の補助金の内示決定に伴うものを計上し  
ております。額、規模については、ここに書いてあるとおりです。

病院機能強化、社会教育施設の整備と書いてあるんですけれども、次のページに行って  
いただいて、まず病院機能の強化です。急性期医療の高度化・充実化を図るために、内視  
鏡下手術支援ロボットを導入します。これを導入することによりまして、急性期医療の高  
度化・充実化を図るということももちろんありますし、市民の健康増進に向けた生活習慣  
病の早期発見、それから重症化の予防を推進するというでもあります。

まず、先ほどの内視鏡下手術支援ロボットの導入ということ。

それから、病院関係ではもう一つあり、総合健診センター改修関係経費ということで、  
こちらは市民の健康増進に向けた生活習慣病の早期発見、それから重症化予防を推進する  
ということで、この予算を計上しています。

3月の議会でも結構質問もいただいて、お答えもしているんですけれども、こうした形  
で人間ドックの事業を拡大することによって、敦賀市は検診の受診率が低いということが  
あるので、その受診率を上げていくということも含めて、このセンターを活性化してい  
きたいなと思っているというところです。

次は社会教育施設の整備ということで、文化財センターです。これは旧成新小学校の敷  
地ですね。今、新学校給食センターもそこに建てているんですけれども、その同一の敷地  
内におきまして、市内出土の埋蔵文化財と歴史資料を整理、収蔵して活用する、そうした

機能を持つ文化財センターの新築工事を実施するというので、その整備事業費を計上しています。

その他のところで2つ紹介させていただきます。

一つが金ヶ崎周辺魅力づくり事業ということで、これは旧敦賀港線の利活用計画に基づきまして、駅周辺から氣比神宮周辺、それから金ヶ崎エリアを結ぶ周遊空間の整備を進めるための基本設計を行うというものです。

次が道路改修事業、それから矢羽根型路面表示というところですが、皆さんご存じのように道路交通法が改正をされたんですけれども、自転車の通行空間をしっかりと確保しないとやはり安全性が確保できないということで、こうした表示を整備するということの事業費を持っています。

以上、今回の補正予算の主なところを説明させていただきました。

**【広報広聴課長】** それでは、ただいま発表いたしました項目につきまして質問をお受けいたします。まず、幹事社さんからお願いいたします。

**【記者】** まず一般会計のほうからで、文化財センターの整備のところをお伺いしたいんですけれども、改めて、どうしてこういった施設が必要なのか、整備の目的と意義について教えてください。

**【市長】** まず、文化財のいろんな出土品や埋蔵文化財で出てきたものというのがあるんですけれども、それをしっかりと保存しつつ、また、皆さんに見てもらおうというのは、なかなか今までできていなかったと、そういう場がなかったということがあります。

こうした埋蔵文化財などはだんだん増えていくものでもあるんですけれども、しっかりと収蔵するような、やはり収蔵にもそれなりに気を遣うところもありますので、そのスペースの確保、あるいは、敦賀でこういう歴史があって、こういうものが出土しているということが分かってもらえるような展示スペースみたいなものも設けて、こちらのほうに、例えば学校のほうから見学に来てもらうとか、そういう場をつくろうということで、この文化財センターをつくりましたということになります。

例えば、我々が想定しているのは、ちょうど新給食センターの隣にもなりますので、新給食センターも見学コースというのをつくるんですね。そういう意味で、例えば学校の校外授業、校外学習とかで旧咸新小学校のエリアに来てもらって、歴史のことも勉強できる、それから自分たちの給食がどのように作られるのかということも見るといった、そのように使ってもらったらいいかなと思っています。

【記者】 もう1点、敦賀市民病院のほうなんですけれども、①のそもそも強化の部分は、いずれも全て市民病院に手術ロボット等を納入されるということだと思いますよね。

【市長】 敦賀病院ですね。市立敦賀病院のほうに導入ということになります。

【記者】 改めて、病院の経営状況等いろいろあると思うんですけれども、こういった充実化を含めて、今後の病院の在り方ですね。どういうふうに関改善を図っていくのかも含め、改めて教えてください。

【市長】 敦賀というのは、地理的条件もあって、やっぱり敦賀の地で、例えば急性期とかそういうところで一定のレベルの医療体制を取っておくということは絶対必要だということに思っている中で、こういうようなある意味高度な医療ができるような機械も導入していくということで、その技術を、医療レベルを保っていくということがありますよと。

一方で、それを保ち続けるには経営の面がもちろん大事になってくるということがあって、こういったロボットを導入すると、それなりに費用もメンテナンスも含めてかかるんですけれども、これを使う件数とかもそれなりに確保することによって、経営のほうにも資するようなものになればいいなということを思っています。

さらに言えば、お医者さんの確保というのはだんだん大変になってきているんですけれども、こうした設備がある病院というのは、やっぱりお医者さんの確保にとってはアピールできる材料にもなる。敦賀病院にはこういう機械がありますよと。こういう手術技術を身につけることができるんですよということのアピールにもなるので、そういう意味では、この機械を導入することによって、いろんな病院にとってメリットがあるのではないかなと。それから地域医療を享受する市民にとってもメリットがあるのではないかなと思っています。

【広報広聴課長】 それでは次に、各社よりご質問をお受けしたいと思います。何かございますでしょうか。

【記者】 今ほどの敦賀病院の件で、細かいことは病院さんにお聞きすればいいのかもしれませんが、こちらの手術支援ロボットというのは、いわゆるダヴィンチと言われるものでよろしいですか。

【市長】 今この製品で出ているものの固有名詞で言うと、そのようになるんですけれども、今からの購入になり、我々としてはまだ決め打ちしてないので、こういう言い方をさせてもらっているということになります。

何かと聞かれたら、そうそうそれですよという感じですね。

【記者】 嶺北の基幹病院なんかではよく耳にするというか目にするんですけど、目にするというかあれですけど、嶺南では初めてになるんですか。

【市長】 初めてになります。

【記者】 こちらは予算書を拝見すると、県の全額補助というところで、確か県の当初予算のほうで地域医療の充実ということで、たしか関西電力さんの寄附金を原資にこういった事業にということで、多分、原資は関西電力さんの寄附金ということでよろしいですか。

【市長】 そのとおりです。共創会議の関連事業ということになります。

【記者】 その共創会議の中で、地域医療の嶺北と嶺南の医療格差の解消とか、そういったことも共創会議の中の主眼の一つかなと思うんですけども、改めてこういった設備が導入されることで、そこら辺の解消に資するというか、従来、結構敦賀市から嶺北の基幹病院に、こういった高度な医療を求めて行かざるを得ないというか、行っていた方も一定数いらっしゃるって、それがとどまるみたいな、そういった効果みたいなものが期待できるのでしょうか。

【市長】 それはおっしゃるとおりで、そもそも共創会議マターとしてこの話があるというのは、やはり地域として、住む人がちゃんとして、働く人がちゃんといないと、それこそ原子力も含めていろんな産業が維持できないでしょうという話があって、それではどうい地域に人は住みたいと思うのか、安心して住めるのかということ、一つの大きな要素は地域医療の話があるということで、敦賀市だけではなくて、ほかの市町の首長さんも医療のことを共創会議の中でもおっしゃるといのがありますよと。

そういうところもあり、今回、共創会議事業の中で取り上げられた事業として、この装置も入ってくるんですけども、先ほどの質問でも申し上げましたけれども、やっぱりそれは地域医療をある一定のレベル、しっかりと確保していきたいという思いがあるというのは、もう先ほど質問でされたとおりでと思っています。

【記者】 先ほどのロボットの話で、医療サービスの向上に向けた取組だということがあったんですけど、一方で、医療ミス、医療事故というのがあって、今回、賠償金を企業会計のほうで準備されたということだと思んですけども、こういった事故について、市民さんとかこれから利用する人達というところに対して、どういうふうな印象が広がるといいですか、市長としてどう捉えているかというのを教えてください。

【市長】 そうですね。今回のことについての中身については、また病院のほうで詳しくお聞きいただければと思っているんですけども、私たちとしては、今後、例えば再発防

止に向けて、人員の体制であったり、あるいはこういう施設面、装備面での体制を取らなければいけないということになった場合には、しっかりと病院のほうも支援していく必要が、市としてサポートしていく必要があるのかなと思っています。

今回、当事者になられた方には、本当に我々としても残念に思っていますし、こういうことが本当に、医療の分野ではこういう事故というのがなかなかなくなるんですけども、少しでも少なくなるような体制を病院が取るところについて、市としてもサポートしていきたいなと思っています。

【記者】 実際に敦賀病院のほうは、今、経営が苦しい状況だということはあると思うんですけど、医療ミスというところで、これから説明があるとは思いますが、人がもっと多くいれば防げたかもしれないとか、そういったミスになった場合に、市のほうで人員を増やしていこうとか、現在苦しい状況ですけども、そういった取組の議論が始まっていくという状況には、市長として考えられているのでしょうか。

【市長】 実際、経営がというところと医療事故がというところで、今回のことに関して、その因果というのがまだ分かってはいませんが、例えば今後起こり得る医療事故というのをなるべく減らすというところで、体制の話、議論というのは、それはされるべきだというふうに思いますし、その体制を取るときに、これだけのやっぱり費用面がかかるんだとかいうこともこれから話としては出てくると思います。

今回、敦賀病院の経営のことに関しては、この医療事故の話がある前から、市としていろんな財政面の支援というのは始めているというところで、本当はやっぱり病院として、これも会計的には全適の病院なので自分たちで頑張るべきところではあるんですけども、私たちの思いとしては、地域医療のレベルというのはしっかりと保っていただく必要がある中で、市としてもお金を病院会計に入れていくということをやっているんですね。

これについて、我々も本当は病院だけでできたらいいなと思いながらやる中で、これを入れるということについてどういう反応があるのかなと。それは、例えば市民の反応だったり市議会の反応だったりというところで、正直、心配するところもあったんですけども、これまでこのことで議会と議論している中で、あるいは市民の方からの意見をいただく中では、割と理解していただいている。やっぱり我々と思いが本当に同じで、病院のレベルを保つということは非常に大事だよと。しかも敦賀病院は公立の市立の病院だよと。そうしたら、お金をどんどん入れろという話ではもちろんないと思うんですけども、

ある一定の支援というのは必要なんじゃないかなということ、ご理解いただいているのかなと思っています。

ただ、今の状態がいいとは必ずしも思ってなくて、それは何かというと、敦賀病院だけが公立病院の中で経営が悪いわけではなくて、日本全国、公立病院の86%が赤字だと言っている状況がそもそもおかしい。それは診療報酬の問題であったりなどがあるので、そこにやっぱり手をつけていただかないと、なかなか財政的に我々としても一般会計から出すというのは本当を言うと難しいところで、それも数億円単位ということになりますと、そのお金があったら2年、3年でどんな施設ができるのかなとか、どんな道路補修ができるのかという話になってしまうので、そこは病院ともいろいろ相談しながら経営改善には取り組みますし、あと国のほうにも、診療報酬のことも含めてもうちょっと考えてもらえないかということは声を上げていきたいなと思っているというところです。

【記者】 予算を拝見して、金ヶ崎の周辺の魅力づくりって、私、すみません、6年ぐらい前に寄せていただいたときも、まだムゼウムができるぐらいのときですけど。

【市長】 ちょうどそのぐらいですよ、6年前だったらね。

【記者】 久しぶりに戻ってくると、歩いている人がやっぱり増えていて、すごいきれいな感じだなと思って拝見しました。

基本設計に取り組まれるということですけど、改めてこのエリア、敦賀にとってはすごい港まちを象徴するエリアですし、大切なエリアだと思いますけれども、これから設計して形にしていくということを見ると、期待感みたいところはどういうふうにお考えなのか教えてください。

【市長】 そうですね。金ヶ崎でいうと、敦賀港線の線路のところを公園化していくところで、今プランニングしている話ですが、もう少し海側のほうで、JRの貨物の跡地のところは既に公園としてやっていくよということを今やっていて、エリア全体としては、一つは市民の憩いの場、今でもそうですけれども憩いの場であり、あと、やっぱり市外から来た人たちが歩いて敦賀のいいところを感じてもらえるような場所になればいいなと思っています。

これの打合せをやるときに、スタッフの人と話をしていたのが、例えば、若い人が例えば大学とかに行っていて、敦賀にちょっと帰省していて、友達が遊びに来る。そのときに友達を連れて行ってちょっと自慢できるような場所みたいな感じになるといいなということを行っているんですけども、そういう意味では本当に市民の憩いの場であり、市外の

人にも歩いてもらえる場所になるといいなと思っています。

【記者】 もう1点だけ。5月の連休明けですかね、知事が原発を視察されて、立地の首長さんと、敦賀が一番最後でしたけれども、順番の問題ではないですが、ずっと最初の原子力の課題について話をしたいということで見て回られました。

やっぱり現場を見るということも大事ですし、もう一つは地域づくりの面で、この場合は原子力は産業ですので、そういう意味でいうと、知事からどういうふうにお話があったかというのは当日伺っていますけれども、立地の首長さんとして、改めて県に期待されること、もしくは新しい知事に期待されることというのを教えていただけますか。

【市長】 そうですね。県に期待するところということで言えば、やっぱり地域振興ということについては一緒に取り組んでいただきたいなと思っていますし、もう一つは、やっぱり原子力防災ということにも我々と同じ思いで取り組んでいただきたいなと思っています。

ですので、当日、私のほうから、あのときはプレスオープンだったかと思うんですけども、申し上げたのが大きく5つほどありまして、一つが次世代革新炉設置に向けた取組を加速していきましょと、国にもそういうことを一緒に言っていましょという形と、それからもう一つ、さっき防災と言いましたけど、避難道路の整備ですね。それからあと敦賀というものの一つの特色として、敦賀市の中で今動いている炉はないんですけども、一方で廃炉は進んできているということで、原子力のリサイクルビジネスですね。それに県は大きく関与しているところですので、それを着実に推進していきましょという話もしましたし、あと、計画にあるのは新試験研究炉、これも産業面の波及効果、それから少しアカデミックな、例えばサテライトキャンパスみたいな話もありますので、これも県と一緒に進めていきたいですねという話もしました。

もう一つが、先ほどの話で、地域医療の話もそのときにさせていただいているんですけども、こういったことについて、ほかの立地とちょっと違う、さっき言った廃炉関係の話であったり、そういうところも含めて敦賀の実情も理解していただき、先ほども言いましたけど、一緒の目線で、一緒の気持ちで取り組んでいただけたらなと思っているところですよ。

知事のほうからは、しっかり連携してやっていきましょと言っていたいただきましたので、そのように進むといいなと思っています。

【広報広聴課長】 6月補正予算案について、ほかございますでしょうか。

それでは続きまして、フリーの質問対応に移りたいと思います。幹事社さんはいらっしゃいませんので、各社さんよりご質問をお受けしたいと思います。

【記者】 ごみ袋の品薄が結構話題になっていて、県内でも指定袋じゃなくていいですよというところも出てきているというところで、敦賀市でも1人1袋にしてくださいとかというところも出ていますので、品薄なんだろうなというところで、今のお考えをお聞かせいただきたいのと、あと、ありとあらゆるものが今、目詰まりしている状況ですから、ほかにもちょっと市民生活に影響が出そうなものが見えているとかということがあれば、教えてください。

【市長】 今のところ、私のところまでは、少し不足するのでどうしようという話は上がってはきてないですね。また何か、実はこういう話がありますということがあれば、またお知らせしたいと思います。

それから、市民生活の影響ということで言うと、今、県のほうで補助の経営資金とかというのが制度を紹介して、この関連で、もう何十件も、応募じゃないですね、申請があったという話がありますけれども、敦賀のほうでもやっぱり申請を出していらっしゃる企業さんがあると聞いています。

物価高騰対策のときもそうだったんですけども、そういう経営面の資金面というのはご相談があれば、例えば敦賀だったら商工会議所を通じて県の制度を使ってはどうですかみたいなことをしているというふうには聞いています。

問題は、お金の資金のところというのは、そういう制度というのはもう既にあって活用されているんですけども、実際、物の調達の方の話があると思うんですけども、これはなかなかちょっと市単独でどうこうというのは正直難しいなと思っていますが、いろんな声というのは、例えば県のほうだったり、それから国のほうだったりというのは、必要に応じて届けていかなきゃいけないのかなと。その前に、報道の方が書いて報道して、それがどんどん届いていくということになると思うんですけども、我々としても、そういう声を届けるべきときには届けなきゃいけないと思っています。

【記者】 あと話題は変わりまして、再処理工場の審査がいよいよ大詰めというか、進んできているんですが、一方で議論を見ていると、性能試験であったりとか大事なことを結構先送りして、何とか形だけ竣工させようというふうに見えてならないというか。整備の方針、竣工後の維持補修とかの方針もまだ全然決まらないとかということは、この間、報告もされていましたがけれども。

県との約束がある中で、竣工が遅れるわけにいかないというのはあると思うんですが、一方で動かないとかいうことじゃ困る。できたけれども動かないでは困るわけで、現状、議論の進め方がちょっとそういうところが見えているかなという気がしているんですが、市長、どういうふうに御覧になっているのか。

【市長】 六ヶ所のことについては、多分ですけれども、福井県の事情、要は関電のロードマップの約束に全くかかわらず、規制委員会はやるべきことをやると思うんですね。そういう意味では、規制委員会としては、絶対にやるべきことをちゃんとやってもらった上じゃないと絶対に許可は出さないはずなので、そこに関電と福井県の約束なんていうことは多分全く考慮されないと思いますから、それを粛々とやっていただいて、それがいつ終わるのかというのは、確かに関電側に、関電というか県と関電の約束には影響はあるんでしょうけれども、いずれにしても規制委員会の審査というのをしっかりとクリアしてもらおう。

そこに何かを抜かすとか、そういうことは規制委員会的にはないはずなので、そこは原電さんが頑張ってやっていただくしかないんじゃないかなと思っています。

【記者】 ちょっと前に、気比の松原のあり方検討会でしたかね、市のほうで立ち上げられて関係機関と対応を協議されるということで、海水浴場の入り込み客というんですか、利用者の方もかなり減っていらっしやって、あと結構ごみの問題とか、あと、さきの議会の中でも議論があったかと思うんですけど、倒木というんですかね、枝の処理が追いつかないとか、いろいろ管理の問題もあるかと思うんですけども、日本三大松原の一つで国の名勝でもある場所ですけれども、改めて景観の維持管理とか、一義的には国のやるべきところなのかもしれませんけれども、そのあたり、検討会のあり方の方向性も含めて、どのように議論していきたいというようなお考えでしょうか。

【市長】 あり方検討会のところで言うと、あそこは結構、観光の話とかもしていただいているんですね。市役所としてもまちづくり観光部長が入っていますし、そういう観点でいうと、すごく今、難しい時期に来ているというのは、あり方検討会でも議論されているとおりで、そもそも気比の松原の人气がどうこうというよりは、海水浴の人气が落ちてきていて、暑過ぎても行けないとか、暑くなる前も海の水はべたべたしてプールのほうがいいみたいな、何かそういう風潮になってきているというのがそもそもあると。

これってだんだん悪循環で、そのように、特にコロナの影響も大きかったですし、お客さんが減ってくると、海の家とかもなかなか浜茶屋さんも運営がしにくくなって、それが

減っていくと、浜茶屋さんもないのかみたいな感じでお客さんがまた減るという悪循環になりがち。

とはいえ、海水浴客というのは敦賀にとってはずっと夏の風物詩でもあったので、できるだけ海水浴場としては、本当は開設してやっていきたいねというところがあるんですけども、やっぱり開設するとそれなりに費用とかもかかるという難しさを、今、あり方検討会のほうでは検討していただいているということかなと思っています。

これが海水浴とかがもう一回ブームになるかということ、多分なかなかそうはならないので、昔のようにしましようという話ではもうないかなと、私、個人的には思っていて、こういう状況の中で、どのように夏でも海を楽しんでもらえるのかということ、このあり方検討会の中で検討していただくという形がいいのかなと思っています。

もう一つが、そもそも気比の松原の、先ほど管理は市ではない、ほとんどが国のところでやっていただく部分、森林管理署でやっていただく部分ですけども、そこについては、前に令和何年の大雪だったか、その被害の倒木とかがまだ残っているところを国のほうにもかなり昨年度強く言いまして、昨年度の秋ぐらいから大分倒木だったりとかを撤去してもらったりとか切ってもらったりとか、あるいは切ったまま地面にずっと置いてあるものとかも撤去してもらおうというようなことも、これまでよりも量的に多くやっていただいたり、あるいは壊れている塀を直してもらおうということをちょうどやっていたんですね。

やっていたら、また昨シーズン大雪が降ってしまって、改めてまた被害が出ているところがあるというところで、これについては、また国の方ともしっかりと連携をして、連携をしてというか我々はお願ひする立場になるんですけども、コンディションを保つ。

すごく苦情が多かったです。見た目が非常によくないということで、市民の方からの苦情も非常に多かったので、これについては国にもしっかりとお願いして、景観も含めてコンディションのいい状態になるべく早くしていきたいなと思っています。

ごみ袋。ごみ袋がないとかいう話になっていないかということなんですけれども。

**【環境政策課長】** ごみ袋の状況ですけども、まずちょっと前提としまして、指定のごみ袋は、自治体によって物も違いますし、それから納入業者も異なりますので、ごみ袋の配布状況も自治体によってまず異なるという前提がございます。

その中で、まず敦賀市におきましては、業者にも確認したところ、当面の間、在庫自体は問題ないと。この状況がずっと来年とか続くとちょっと分からないですけども、今の

状況では問題ないと。

ただ現状としまして、コロナ禍のマスクと一緒に、やはり店舗で買い占めが起きると、当然、お店の品物がなくなるという状況が一時的に起こってしまいます。ただ、現状を見ていると、数日のうちに納品できる状況ということも聞いておりますし、一部店舗におきましては、ちょっと買い占め防止のために、1人何枚までという制限をかけているというお店があるというところもお聞きしているところでございます。

ですので現状としましては、在庫はございますし、一時的に欠品ということはございますが、今のところ、例えば代用の袋で収集をすとか、そういうところは今のところは考えていないというところが現状でございます。

【市長】 ということで、そこまで深刻な状況じゃないので、私のところにも何も上がってこなかったということかと思えます。

【広報広聴課長】 それではフリーの質問を続けたいと思いますが、何かございますでしょうか。

【記者】 バスの事故の件なんですけれども、部活動の送迎の事故を受けて、敦賀市の中学校の部活動という、今、地域展開とかをされていて、なかなか実態の把握とかいうのも難しいところもあるかもしれないんですが、現状だったり、調査だったりをする予定だったり、されているとかという状況はありますでしょうか。

【市長】 私、今のところ何も聞いてはいないんですけど、教育委員会関係、ちょっといいですかね。すみません。

私、調査をかけているかとか、そういうのを把握してないので、また調べてお知らせするようにします。

【記者】 24日に、つるがのおと、ちょっと取材に行っていたんですけど、そのときに市長の姿もちょっと見かけまして、プライベートで行っているかもしれないので申し訳ないですけども、おぼろっくとかと違って高校生が運営企画しているというなかなか特殊なイベントだと思うんですけど、何か市長の目から、率直にどういふことを感じたかなと、ちょっと感想を聞きたいと思えます。

【市長】 つるがのおとは、ちょっと前からやり始めていて、私もプライベートでふらっと見に行ったんですけども。そうですね、高校生の人とか本当に頑張ってやってというか、何か楽しそうにやっていて、正直びっくりしましたね。ここまでがつつり自分たちでやっているんだと思って。

それが一つと、つるがのおとに限らずですけれども、高校生って本当にいろんなイベントとかで、ボランティアに入ったりとかイベントを主催したりとか、活発だなというのは感心して、自分の高校生のときを考えると絶対そんなことしてなかったので、すごいなと正直思っています。

例えばムゼウムのガイドも高校生がされていますし、氣比神宮の前のボランティア活動、写真を撮るなども高校生がされていますし、おぼろっくの方でもボランティアに入っていますし、それからいろんなイベントを市などでも、市の協賛とか後援とかでやっているやつも大体20人から30人ぐらい高校生のボランティアが入っていることが結構多いので。去年は議会に請願を出すなど、高校生の人は本当に今頑張っているのも、すごくありがたいなと思いますし、そこで何ていうんですかね、地域愛みたいなものを育んでもらえているのであれば、大学とかで一回県外へ出る、市外へ出るというのは全然ありだと思うんですけども、そういう活動を通じて地域愛を育んでいただいて、社会人になってまた地域で頑張ってください、敦賀で頑張ってくださいというようになると、めちゃくちゃいいなと思っています。

**【広報広聴課長】** ほかがございますでしょうか。

それでは、以上をもちまして市長定例記者会見を終了いたします。

ありがとうございました。

午前11時41分終了